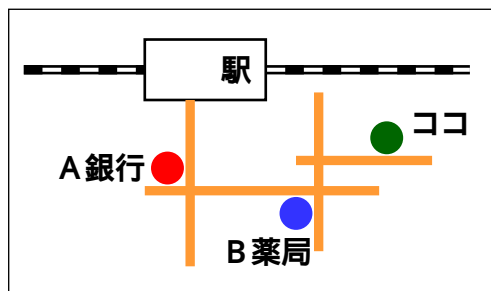


# enodrawはどのような用途に使用できますか？

enodrawは機動力の高いドロソフトで、様々な用途に使用できます。今後のバージョンUPにおいても、CADとの連携や簡易表計算、ワープロ機能等の充実を図る予定です。

## PDFメールの作成，編集

標準の保存フォーマットがPDFである為、PDF形式のメール（現状は添付ファイルでしか送れないが）の送信がストレスなく行えます。特に、以下の様な事例で有効です。



PDFメールの場合

どちらを選びますか？

駅の南口を降りて直進します。A銀行の交差点で左折し、真っ直ぐ進みます。するとB薬局のある交差点があるので左折しすぐに右折します。そのまま真っ直ぐ進むと左側にあります。

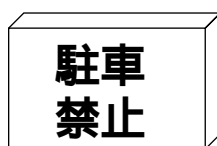
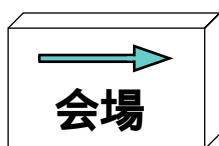
通常のテキストメールの場合

このような道案内などの場合、enodrawによるPDFメールを作成する時間と、通常のテキストメールを作成する時間はほとんど変わりません。ただ、これを受け取った人が目的地へ正確に行く確率は全く違います。テキスト形式の場合、方向オンチな人はさんざん迷ったあげく携帯電話をかけるでしょう。

enodrawでは「メール送信」コマンドにより、素早くPDFメールを送信する事ができます。また、受け側のパソコンにもenodrawがインストールされていれば、受け取ったPDFファイルを編集して、PDFメールにて返信することもできます。

## 一時的に使用する紙の看板などの作成

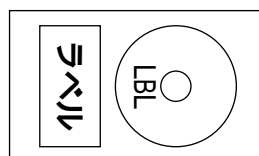
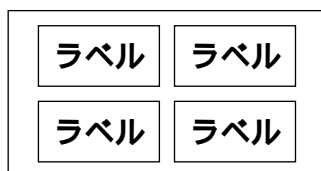
本ソフトは常時印刷イメージで編集を行う為、印刷プレビューが不要で、望み通りのレイアウトで一発印刷できます。



手早く上記のような看板を作成したい場合に威力を発揮します。

## 各種ラベル印刷

mm単位の座標を持っているので、ラベル用紙に決められた配置寸法で印刷するのは簡単です。ラベル用紙の寸法を定規で計測し、その座標通りに作画すればよい。



(次ページに続く)

## 簡易的なCADソフトとしての使用

本ソフトでは1ドット(ピクセル)の寸法を任意に設定できます。標準設定では1ドットの寸法は0.125mm(約200DPI相当)となっている為、mm系の単位で作図するのが簡単です。今後はDXFやSFXなどのフォーマットの入出力を充実していく予定なので、他のCADとの連携が簡単になります。

## プレゼンテーション資料の作成

通常はパワーポイントで行うプレゼンテーション資料の作成を本ソフトで行う事により、Eメール等によるデータの配信などをPDF形式で行えます。会議や打ち合わせでのプロジェクター使用時の閲覧ソフトは本ソフトとAcrobat Readerのどちらでもかまいません。本ソフトを使用する場合は画面全体表示モードにする必要がない為、操作が楽です。

## 取扱説明書や小説などの多ページ文書の作成

本ソフトはページ数の制限がありません。またファイル読込や保存をバックグラウンドで実行する為、処理が済んだページより随時編集する事ができます。保存の際も変更のないページの圧縮操作を行わない為、オペレータを待たせません。イメージ要素をあまり貼り付けないようにすれば、ペンティアム3レベルのCPU、メモリが256MB程度のパソコンでも数100ページの文書が楽々と編集できます。しおり機能やページイメージの縮小表示があるのも多ページ編集の際には大変有効です。

## PDF形式のホームページ作成

一般的ではありませんが、HTMLではなくPDF形式においてもリンクが設定できるので、「PDF形式のホームページ」が存在します。例えば大阪市交通局(地下鉄)のホームページにあります。本ソフトはリンク設定をプロパティとして設定しておけるので、PDF形式のホームページを直接編集できる唯一のアプリケーションと言えるかもしれません。

リンク貼付例 [enodraw公式ページへ](#)



## デジカメ用アルバムの作成

エクスプローラよりドラッグ&ドロップするだけで写真をページに次々と貼り付けていく事ができるので、PDF形式のデジカメアルバムが直ぐに作れます。写真データは永久保存が基本なので、特殊なファイル形式に保存するのは勇気がいりますが、PDF形式なら携帯電話やPDA、UNIX系のOSなどでも閲覧でき、将来的にも安心のフォーマットといえます。

また、本ソフトはドローソフトですから貼り付けた写真にタイトルや注釈、コメントなどを自由に書き込む事ができます。

さらに、しおりやレイヤを設定すればアクロバットリーダーでの

閲覧が非常に楽になります。デジタル複合機などで複数のイメージデータを自動的にPDF化する機能がありますが、これは閲覧性の低いゴミデータを作っているだけです。

人間がページ上のイメージを見ながら作成したものに勝つことはできません。



\*\*\*\*\*のつつじです  
大変綺麗でした。

(次ページに続く)

## PDF変換ソフトとしての使用

本ソフトはPDF形式を標準フォーマットとしているので、PDF形式に保存したファイルを読み込んで編集する事ができます。それに加えて本ソフトでは、OLEコンテナ機能をサポートしていますので、EXCELやワードアートなどのOLE対応アプリケーションのデータを貼り付け、PDF形式に保存すれば、そのデータもPDFファイルを読み込んで編集可能となります。例えばEXCELのグラフを貼り付けて保存しPDFにしたら、後でそのPDFを読み込み、グラフの内部データを編集（当然ですが、グラフの形状も自動的に変わります）、再びPDFに保存できます。なお、この過程において一瞬でもEXCELのファイルを作る必要はありません。これは他のPDF変換ソフトには絶対出来ない芸当です。

また、通常のPDF変換ソフトではフォントや配置レイアウトが勝手に変化したり、ある部分が消えたりするトラブルやアプリケーション同士による相性が存在し、これに時間が取られる事が多いですが、本ソフトでPDF変換を行うと、完成イメージを確認しながら配置できるので一発で変換が終了します。

ただ、OLE対応アプリケーションを貼り付けた場合、PDF上ではイメージデータとなる為、文字列の検索やコピーがアクロバットリーダー上でできないという難点があります。

なお、本ソフトではOLE貼り付け以外に、各種CADデータの読み込み機能の追加を予定しています。この場合、レイヤを保ったままPDFに変換できる為、アクロバットリーダー上でレイヤの表示状態を切り替えながら表示/印刷が可能になり、CADユーザにとっては大きなメリットとなるはずです。

## 圧縮/解凍ソフトとしての使用（解凍はアクロバットリーダーでもOK）

添付ファイル機能を使えば、任意のファイルをPDFファイルに埋め込む事ができます。この場合、埋め込んだデータは圧縮される為、圧縮/解凍ソフトとして使用する事ができます。ZIPやLZH形式では、そのデータに対する説明を入れる決まりがなく、各自が説明のテキストファイルを独自のファイル名で格納していますので、解凍する側が探さなくてはなりません。PDF形式ならばアクロバットリーダーで開いた瞬間（解凍前）に説明を自動的に見る事になります。

現状は解凍の操作性の悪さやディレクトリ階層を使えないというデメリットもありますが、「説明付きの圧縮ファイル」という新しい概念には魅力がありますし、通常のドキュメント管理システム（PDFやイメージ、OFFICEのデータしか入らない）に任意のデータを埋め込んだPDFファイルを格納するという裏技的な使い方も可能です。